

大島口の戦い 6月7日～20日



四境戦争は屋代島、現在の周防大島町で始まりまし。6月7日、征長軍の本営がある大島から幕府海軍が南下してきて、安下庄が砲撃されました。翌日、由宇が砲撃されたときに、赤子を背負った百姓の妻が直撃弾を受けて初の死者を出しました。さらに隣藩の松山藩兵が安下庄に、幕府兵が久賀に上陸、ともに放火のうえ略奪され、ふたつの町は大きな被害を受けました。



当時全焼した大島の久賀の町

この知らせを受けた山口藩庁では、交戦を決意。海軍総督高杉晋作を向かわせ、反撃のための兵を対岸に集結させました。15日、長州藩軍は島に上陸し、3日で追い払いました。大島口の戦いでは本来いくさとは無関係であるべき民衆が襲われ、悲惨な目に遭いました。このことは長州藩に戦いの正当性を与え、世論は長州の味方につきました。

芸州口の戦い 6月14日～8月9日



ついで14日、広島藩との藩境である小瀬川で開戦、芸州口の戦いが始まりまし。高田藩と彦根藩が戦国武将の時代のままの武装だったのに対し、近代銃をもつ長州藩軍が大勝、広島藩の領地に進攻し、占領しました。ところが次いで出てきた幕府歩兵軍と和歌山藩軍は長州藩軍と同等の最新武器を持っていて、激戦になりました。結局、訓練と士気の高さで長州藩軍は負けなかつたのでした。



開戦した小瀬川

戦場となった広島藩領では、町が焼けて多くの被災者を出しました。山口藩庁は、医者や米の配布などの援助を行いました。さらに苦情があれば申し出るようにと高札をたて、様々な苦情の処理を行い、占領地の心情に配慮しました。一方、征長軍は略奪したり、民衆の家産を荒らしたり、評判は良くありませんでした。

追憶～第五回菜香亭コンサート

3月12日(土)に菜香亭で春のコンサートを開催しました。オカリナとケーナ奏者の和田名保子さんの演奏を中心に、後半はエフエム山口パーソナリティーでお馴染みの新井道子さんの朗読も交えてお楽しみいただきました。



オカリナとケーナの巧みな演奏による美しく温かい音色が会場を満ちました。懐かしい曲から和田さん作曲のスケールの大きな曲までオカリナとケーナの魅力をたっぷり味わいました。



新井道子さんが中也賞受賞の和合亮一さんや佐々木幹郎さんの詩を朗読。魂のこもった言葉がオカリナの音のにつ、強く胸に迫りました。



山口東北人会の服部さん。静かな語りの中に在り日の穏やかで風情ある町の営みを偲びました。

また、「3.11を忘れない」と題して、山口東北人会の服部俊子さんの講話もお聴きいただきました。今年は5年という節目の年ということもあり、報道が例年になく過熱していました。そこで感じるのは、本当の復興はこれからだ...ということ。服部さんのお話に5年前の衝撃が蘇ってきました。大切な人を失われた方、家を失われた方、故郷を離れて暮らされている方々に思いを寄せ、これからもずっと応援していかなければと思います。

来場の皆さまから頂いた寄附金は、「ふくしま子ども寄附金」と「山口東北人会」にお預けし、復興支援に活用していただきます。この内容につきましては、改めてご報告します。

石州口の戦い 6月16日～7月18日



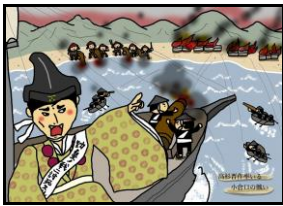
浜田藩と接する石州口の戦いは、大村益次郎が指揮をとりまし。征長軍と益田川を挟んで対戦し、追い払いまし。このとき征長軍は逃走を有利にするため町に放火しまし。長州藩軍は消火に当たり、益田の町の人の希望を得まし。益田で勝利した後は、浜田の手前で連勝、浜田藩は城を自ら焼いて松江へ逃亡しまし。



両軍が対峙した益田川

戦には戦士だけでなく、物資を運んだり食事を作ったりする人夫が必要です。当時、浜田藩は物価が高騰して農民は困窮してしまし。浜田藩領の農民は征長軍の動員命令に従わなかつたり、逃亡したりしまし。その結果、征長軍の応援部隊の動きが鈍ったことも敗北の一因となりまし。

小倉口の戦い 6月17日～10月10日



小倉藩が先制攻撃をしてくるという情報をつかんだ高杉晋作は、そのまにこちらから攻めようと海軍で門司と田野浦を砲撃、このとき坂本龍馬が別働隊の艦隊を指揮して参戦し、勝利に貢献しまし。陸上は山県有朋率いる奇兵隊が主力部隊として小倉の手前まで攻め込みまし。征長軍は敗北の予感に内部崩壊、小倉城を焼いて移動しまし。



当時全焼した大島の久賀の町

長州藩海軍はたつたの五隻、蒸気艦はそのうち二隻という弱小でしたが、大型艦をそろえた幕府海軍に対し、果敢に攻めて、陸上部隊を守りまし。倉藩は藩庁を内陸の香春に移して抗戦をつづけまし。このとき高杉晋作はすでに体調を壊しており、床に臥せていまし。亡くなつたのは翌年4月14日です。

講演会「山口移鎮と戦費の調達」

2月27日(土)菜香亭で講演会「山口移鎮と戦費の調達」を開催しまし。

講師に田中誠二さん(毛利博物館館長)を迎えて、幕末の山口移鎮の経費と、下関戦争から戊辰戦争までの戦費を長州藩がいかに調達したか、をお話しいただきまし。

当日は81名の参加者があり、みな興味深く聞き入っていまし。



田中誠二さん(毛利博物館館長)

長州藩は幕末に行つた戦争のために軍艦や武器を購入し、多大な出費がありました。それらは、藩札で領内産物を買占め、大阪の豪商を通して販売して銀を得、それを換算して資金調達していまし。

長州藩は記録を積極的に残す国柄で、銀の換算レートを何十年と記録しており、藩の経済官僚は藩札を出す場合、それを参考に損をしないように出すなど、かなり優れた官僚組織だつたといふことなどを話されまし。



山口市菜香亭だより

西の菜時記

平成28年3月31日発行
第40号
発行元: 山口市菜香亭
指定管理者
特定非営利活動法人
歴史の町山口を甦らせる会

山口市菜香亭だより

西の菜時記

平成28年3月31日発行
第40号
発行元: 山口市菜香亭
指定管理者
特定非営利活動法人
歴史の町山口を甦らせる会